



本書は、各評
価機構における
大学評価のポイ
ントを解説した
のち、大学の質
保証に関する論
考を行う。そこ
では、中等教育

までに追求されてきた「確かな
学力」の裏付けを伴う「生きる
力」を一層発展
させ、生涯にわ
たつて必要にな
る力を培うよう
求められるとい
う。

「ラーニング・
アウトカム」(学
修成果)につい
ては、日本では
「知識、スキル、
態度」のことを
指しているが、
米国ではアカデミックなものだ
けではなく、「4年間で学ぶ学
術的、社会的、人間的な素養を
包括」するものとし、コネチカ
ット大学の「アウトカム・ピラ
ミッド」の例を紹介する。そこ
では、最上位の建学の精神が、
多様、複雑になって、最底辺の
1回ごとの授業にいきわたり、
目的と学修成果が明確にされ、



早田幸政 著
3240円 エイデル研究所
☎03-3234-4641

大学の質保証とは何か

科目群が密接に関連し合う「科
目順次性」が実現する。日本で
は、一般教育科目、専門科目を
含め、明確なアウトカムが示さ
れておらず、学生たちは単位を
積み上げて卒業要件を目指す傾
向があるという。

本書巻末の座談会では、教職
員がこのような大学改革に対し
て、研究時間が奪われるなどの

「被害者意識」
に染まらずに協
力するよう求め
ている。たしか
に、大学教員の
教育能力開発の
取り組みが本格
化する今日、こ
のような「被害
者意識」は、裏
で蔓延している
ような気がする。
しかし、評者は
次のように感じて
いる。研究は
できるけど、教育
はできない教
員など、実際に
いるのか。研究
も教育もできる
か、どちらもで
きないかのどち
らかなのではない
か。繁忙感のみに
終わる空しい時
間を削ぎ落として
、研究と教育の
両方の質の向上
に時間をかける
ようにすることが
必要だ。
(聖徳大学教授・西村美東士)